

## 第38回研究助成金・海外留学助成金受賞者決定！

かなえ医薬振興財団は、将来の日本の医療を担う若手研究者の育成のために1970年に設立され、これまでに全国1,219名の研究者に研究助成金および海外留学助成金を提供してまいりました。第38回となる2009年度は、10月7日の選考委員会及び10月27日の理事会を経て、受賞者56名が決定されました。今年度は、医学及び薬学領域の若手研究者（研究助成金40歳以下、海外留学助成金35歳以下）を支援するため総額6,220万円の助成金を交付します。審査の結果、研究助成金は計40名、海外留学助成金は計16名の先生方に授与されます。（受賞者一覧は3-4頁参照）



10月7日に開催された選考委員会の様子

### ○分野別の応募状況

#### ◇研究助成

分野	応募件数
臨床医学1	39
臨床医学2	50
臨床医学3	64
臨床医学4	88
基礎医学1	155
基礎医学2	158
合計	554

#### ◇海外留学助成

分野	応募件数
臨床医学1	16
臨床医学2	13
臨床医学3	18
臨床医学4	38
基礎医学1	39
基礎医学2	32
合計	156

臨床医学1：神経／脳  
臨床医学2：循環器  
臨床医学3：消化器／代謝  
臨床医学4：呼吸器／その他  
基礎医学1：癌／免疫／ゲノム／感染  
基礎医学2：神経／薬理／薬物動態／その他

### ●選考委員長よりひとこと



選考委員長 春日 雅人（国立国際医療センター 研究所長）

今年度は、昨年と同様に応募領域を臨床医学の4分野、基礎領域の2分野の合計6分野としました。すなわち臨床医学分野は、1) 神経／脳、2) 循環器、3) 消化器／代謝、4) 呼吸器／その他とし、また基礎医学分野を1) 癌／免疫／ゲノム／感染、2) 神経／薬理／薬物動態／その他に分け公募しました。

今回の応募数は昨年より66報多い研究助成金が554報、海外留学助成金が156報になり、厳正な審査の結果、研究助成金受賞者40名、海外留学助成金受賞者16名が決定いたしました。研究助成が13.9倍、海外留学助成が9.8倍の厳しい競争の中で受賞された先生方に、心よりお喜びを申し上げます。この受賞が、先生方の今後の研究活動に、より一層の励みになりますことを期待しています。

## ●研究助成金受賞者 喜びの声



### 山末 英典（東京大学大学院医学研究科 脳神経医学専攻精神医学分野）

この度は荣誉ある貴財団の研究助成にご採用頂きまことに光栄に存じます。私は、これまで当講座の笠井清登主任教授のご指導の下、脳画像解析を応用した精神疾患の脳病態研究、特に近年は協調性や自閉症の頻度などの行動レベルの男女差から脳形態やオキシトシンなどの生物学的レベルの男女差を結びつける研究を行っております。この受賞を励みにより一層研究に精進を重ねて参存しております。

### 絹川 真太郎（北海道大学大学院医学研究科 循環病態内科学）

第38回かなえ医薬振興財団助成金の採用、誠にありがとうございます。私はこれまで心不全の基礎研究ならびに臨床研究に取り組んできました。高齢化社会においでますます心不全患者が増加しており、少しでも治療に役に立つ研究を続けていくことが出来ればと思っております。今回の助成にふさわしい研究成果をご報告できるよう頑張っていきたいと思っております。



### 入江 潤一郎（慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科）

このたびは荣誉あるかなえ財団の研究助成金を頂くことになり、誠に光栄に存じます。現代の人類の脅威である肥満、それに伴う糖尿病、高血圧をはじめとした生活習慣病は日本人にも急増しております。私はこの様々な病態を呈する生活習慣病を、肝臓や消化管など色々な臓器からアプローチすることで新規の解決法を検討して参りました。今回の受賞にふさわしい役立つ成果を挙げられるように益々精進致します。

### 中込 一之（埼玉医科大学 呼吸器内科）

第38回かなえ医薬振興財団「研究助成金」に採択されましたことを大変光栄に思います。私は今まで東京大学アレルギーリウマチ内科の土肥眞先生の指導を受け、マウスで、気管支喘息の病態解明及びサイトカインの治療効果に関する研究を行ってきました。現在は埼玉医科大学呼吸器内科に異動し、永田眞先生の指導の下、難治性喘息の病態解明を目標としています。今後も周囲の方や研究環境への感謝を忘れずに頑張りたいと思っております。



### 石井 優（大阪大学免疫学フロンティア研究センター 生体イメージング）

この度、貴財団の研究助成金の交付を賜り大変荣誉なことと慶んでおります。私は主に骨や骨髄について研究をしていますが、実際の骨の中で多様な細胞がどのように働いているか解明したいと考え、特殊な顕微鏡を用いて骨組織内を生きのまま観察する方法論を開発しました。これにより、骨の「止まった」解析ではなく「動きのある」解析を行い、新しい研究概念を創出して、今後の科学の発展に貢献したいと意気込んでおります。

### 伊藤 俊樹（神戸大学大学院医学研究科 膜生物学分野）

この度は第38回かなえ医薬振興財団助成金に採択頂き、誠にありがとうございました。細胞膜と相互作用するタンパク質群は、細胞内外での情報変換や物質交換において重要な役割を担っており、その機能発現機構を分子レベルで理解することは基礎生命科学だけでなく、がんや糖尿病、感染症に至る多様な疾病克服への礎になると期待されます。生命現象の根幹を包括的に理解することで、先端医学の発展に貢献したいと考えています。



●海外留学助成金受賞者 喜びの声



日宇 健 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経外科学)

この度は貴財団の助成を賜り大変光栄に存じます。今回の助成のおかげで世界的な幹細胞の研究拠点であるスタンフォード大学での脳梗塞再生医療研究に従事する機会を得ることができ感謝致します。私はこれまで脳虚血と脳血液関門の研究を重ねて参りましたが、この留学を機にさらに発展させ臨床応用に向けての確かな糧にしたいと決意を新たにしております。ご期待に沿えるよう研究に邁進する所存です。

塩田 真己 (九州大学大学院医学研究院 泌尿器科)

このたびは荣誉あるかなえ医薬振興財団海外留学助成金を頂き大変光栄に存じます。多くの進行前立腺癌患者がホルモン療法を受けますが、ほとんどの方が再燃を来し、ホルモン抵抗性前立腺癌となります。私どもは、九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野、内藤誠二教授の下、新たな仮説を立てホルモン抵抗性前立腺癌の発症予防、治療の開発に取り組んでおります。今回の受賞を励みに今後もこの研究を発展させていきたいと思っております。



●第38回(平成21年度)助成金受賞者 一覧

研究助成金

氏名	所属	研究課題
<b>臨床医学1</b>		
山末 英典	東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻精神医学分野	オトシトシン経鼻投与による、内側前頭前野のグルタミン酸濃度の変化と、こころの理論の障害への効果の検討
小野 賢二郎	金沢大学医薬保健研究域 脳老化・神経病態学(神経内科)	有機化合物に焦点をあてたレビー-小体病の予防・治療薬の開発
安原 隆雄	岡山大学大学院脳神経外科	頭部外傷モデル動物に対するカルバミル化エリスロポエチン-ヒト IgG Fc 部融合タンパク(cEPO-Fc)を用いた前臨床研究
<b>臨床医学2</b>		
吉満 誠	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 心筋症病態制御講座	心 Fabry 病患者由来皮膚線維芽細胞からの iPS 細胞の樹立、心房細胞への分化誘導による心 Fabry 病の病態解明
絹川 真太郎	北海道大学大学院医学研究科 循環病態内科学	慢性心不全患者の運動耐容能低下における下肢骨格筋細胞内脂肪の重要性と抗酸化薬による新規治療法の開発
伯野 大彦	防衛医科大学校循環器内科	動脈硬化性大動脈弁・血管病変におけるストレス応答性接着分子の役割の解明と治療への応用
奥田 真一	山口大学医学部附属病院第二内科	筋小胞体カルシウム放出チャネル安定化による新しい致死性不整脈の治療法の開発
<b>臨床医学3</b>		
前田 法一	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	傷害組織集積分子としてのアディポネクチンの機能解析とアディポサイトカイン発現異常に関わる上流因子の探索
今井 淳太	東北大学病院糖尿病代謝科	自律神経を介した肝臓-膵β細胞関連機構による膵β細胞量制御メカニズムの解明
入江 潤一郎	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科	脂肪肝発症モデルマウスを利用した新たな体重制御機構の検討
小西 毅	癌研有明病院消化器外科	circulating tumor cell 測定を用いた新たな大腸癌切除後・再発予測方法の開発
赤星 朋比古	九州大学大学院医学研究院 消化器・総合外科	肝硬変症における肝線維化の分子メカニズム解明と脾臓内 T 細胞の制御による新しい治療法の開発
<b>臨床医学4</b>		
中込 一之	埼玉医科大学アレルギーセンター	難治性喘息の病態形成におけるヘルパー T(Th)1 または Th17 型免疫応答の意義に関する研究
幸谷 愛	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター/血液腫瘍内科	miRNA による骨髓系細胞から B 細胞への分化転換の試み
柳 輝希	北海道大学大学院医学研究科 皮膚科学分野	道化師様魚鱗癬モデルマウスにおける表皮分化機構の解明と新規治療法の開発
堀田 勝幸	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科学	進行肺癌に対する抗癌剤治療の無作為化比較試験における、主要評価項目である全生存期間に対する至適代替評価項目の探索
永尾 圭介	慶應義塾大学医学部皮膚科	皮膚樹状細胞(ランゲルハンス細胞)ニッシュの同定
時田 大輔	東京女子医科大学泌尿器科	間葉系幹細胞にて誘導されたドナー特異的制御性 T 細胞による移植免疫寛容の導入
<b>基礎医学1</b>		
石井 優	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター	二光子励起顕微鏡を用いた生体骨イメージングによる破骨細胞分化・機能の制御機構の解明
赤木 紀之	金沢大学医薬保健研究域医学系 再生分子医学	がん遺伝子による幹細胞の多分化能制御機構
中山 恒	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 MTT プログラム	癌の増殖と転移を同時に抑制する低酸素シグナル阻害ペプチドの開発
川内 潤也	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 遺伝生化学分野	リボソーム RNA 転写制御と新規がん治療戦略の開発

井垣 達吏	神戸大学大学院医学研究科	モザイク・クローン法による非遺伝的腫瘍悪性化機構の解析
新 幸二	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学分野	腸管での Th17 細胞の誘導、活性制御機構の解明
堀 昌平	理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター	制御性 T 細胞分化の可塑性：生理的意義とメカニズム
大島 浩子	金沢大学がん研究所 腫瘍遺伝学研究分野	マウスモデルを用いた消化器がん発生における SOX17 の役割の研究
二村 圭祐	大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子治療学	心臓発生におけるエピジェネティックな遺伝子発現制御機構の解明
岡崎 拓	徳島大学疾患ゲノム研究センター ゲノム機能分野	自己免疫疾患原因遺伝子 AIDA の機能解析
錦見 昭彦	九州大学生体防御医学研究所 免疫遺伝学分野	ケミカルバイオロジーに基づく DOCK2 シグナル伝達機構の解明と制御
<b>基礎医学 2</b>		
伊藤 俊樹	神戸大学大学院医学研究科 膜生物学分野	細胞膜と相互作用する新規タンパク質複合体の解析
内村 健治	国立長寿医療センター研究所アルツハイマー病研究部発症機序解析研究室	アルツハイマー病脳内細胞遊走に関わるセレクチン結合糖鎖の作用機序
佐藤 あやの	岡山大学異分野融合先端研究コア	老化における細胞内輸送能低下と小胞輸送制御タンパク質の化学修飾の関連
檜井 栄一	金沢大学医薬保健研究域薬学系	骨組織に発現する時計遺伝子を標的とする骨代謝性疾患に対する新規治療法の開発研究
中村 貴	東京医科歯科大学難治疾患研究所 発生再生生物学	肝再生を制御する新規脂質メディエーターの探索
山本 伸一郎	京都大学大学院薬学研究所 生体分子認識学分野	心疾患における TRIC チャネルの病態生理学的意義の解明
岡島 徹也	名古屋大学医学系研究科附属 神経疾患・腫瘍分子医学研究センター	上皮成長因子ドメイン型糖鎖リモデリングによる高機能タンパク質の創出
齋藤 康太	東京大学大学院薬学系研究科 生理化学教室	栄養障害型表皮水疱症の原因遺伝子 VII 型コラーゲンの分泌を制御する新規小胞体膜蛋白質の機能解析
安部 健太郎	京都大学大学院生命科学研究所 高次脳機能学分野	音声コミュニケーションの神経機構解明に向けた分子遺伝学的手法の確立
石井 清朗	筑波大学大学院人間総合科学研究科 内分泌代謝・糖尿病内科	海馬における内因性カンナビノイドと脂肪酸伸長酵素の役割
岡田 洋平	慶應義塾大学医学部生理学教室	分泌因子によるヒト多能性幹細胞由来神経幹細胞の特異性制御機構の解析

## 海外留学助成金

氏名	申請時所属／留学先	研究課題
<b>臨床医学 1</b>		
日宇 健	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経外科学	脳梗塞に対する再生医療の臨床実用化に向けたヒト神経幹細胞移植後の機能回復の内因性メカニズムの解明
佐橋 健太郎	Cold Spring Harbor Laboratory	マウスを用いた脊髄性筋萎縮症及び家族性自律神経異常症に対するスプライシング制御治療法の開発
<b>臨床医学 2</b>		
岡田 英志	カリフォルニア大学サンディエゴ校 医学部循環器内科	虚血性心疾患における心筋インテグリン受容体の機能解析
<b>臨床医学 3</b>		
小坂 久	兵庫医科大学外科学	ケモカインを中心とした術後癒着形成メカニズムの解析及びその制御
吉野 純	ワシントン大学医学部	NAD 合成系 -Sirt1 を標的とした 2 型糖尿病への新しいトランスレーショナル型リサーチの展開
<b>臨床医学 4</b>		
塩田 真己	九州大学大学院医学系学府 臓器機能医学専攻泌尿器科学	アンドロゲン除去下の酸化ストレスによる前立腺癌アンドロゲン非依存性の獲得
中村 悠美	ミシガン大学病理学教室	インフラマソームを介した肥満細胞による Th17 細胞誘導機序の解析
本田 哲也	京都大学医学部附属病院皮膚科	皮膚免疫のダイナミクスと全身免疫への関与の研究
衣斐 寛倫	Massachusetts General Hospital Cancer Center	K-Ras 遺伝子変異癌に対する至適抗体療法の検討・開発
<b>基礎医学 1</b>		
永井 成樹	スタンフォード大学医学部	ヘテロクロマチン領域における高次クロマチン構造の解析
北村 剛規	京都大学大学院医学研究科 遺伝薬理学	マクロファージが乳癌の転移を促進するメカニズムの解明
野島 久	大阪大学大学院医学系研究科	上皮組織構築における「がん原性」細胞の排除機構の解明
木原 泰行	東京大学大学院医学系研究科 細胞情報学	ヘルパー T 細胞増殖・分化に関わる NF- $\kappa$ B シグナル伝達の数理モデル構築と実験的検証
<b>基礎医学 2</b>		
中山 雅敬	Max Planck Institute	エンドサイトーシスによる血管発生制御機構の解明
木田 泰之	The Salk Institute for Biological Studies	成体心臓における代謝経路の変換と機械刺激
高杉 展正	東京大学大学院薬学系研究科 臨床薬学教室	アルツハイマー病関連遺伝子 BACE1 の神経活動およびストレス依存的な活性制御機構の解析

## 発行

財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス（株）内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi-aventis.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

### ☆ご協力をお願いします

このニュースレターは、歴代の助成金受賞者の皆様を中心に、お送りさせていただいております。

送付先のご所属等に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですが e-mail 等でご連絡いただきますよう宜しくお願い申し上げます。